

認知言語発達障害リハビリテーション治療学演習

[演習] 第1・2学年 後期 選択 2単位

《担当者名》橋本竜作 hashi-ryu@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

神経発達障害群には、知的能力障害をはじめ、コミュニケーション障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、限局性学習障害、運動障害群といった発達期に生じる様々な障害が存在し、リハビリテーションの対象は幅広い。これらの障害に対する臨床実践方法は多様であるが、科学的根拠に基づくものは少ないのが現状である。本講は特に認知・言語発達の障害に関わる科学的根拠に基づく評価方法や介入方法などの臨床実践方法の課題を考察し、課題に対する科学的な検討方法について、ディスカッションを通して理解を深める。

【学修目標】

一般目標：神経発達障害の中でも、認知・言語発達の障害について、科学的根拠に基づく評価方法や介入方法などの臨床実践方法を理解する。

行動目標：

1. 認知・言語発達障害のリハビリテーションにおける評価法・介入法の課題を説明できる。
2. 今の評価法・介入法の課題と、それに対する科学的な検討方法を述べるができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	演習の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明を行う。	橋本竜作
2~7	評価法に関するレビューと報告	評価法に関するレビューを実施し報告する。	橋本竜作
8~15	介入法に関するレビューと報告	介入法に関するレビューを実施し報告する。	橋本竜作

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

課題およびプレゼンテーション 100%

【教科書】

特に指定しない

【参考書】

特に指定しない

【学修の準備】

予習は関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること（80分）。

復習はプリント、講義メモを活用して学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験を活かした教育内容】

橋本竜作（公認心理師）